

2017年5月31日（水）から6月4日（日）まで北海道創玄・東海創玄の合同展覧会が札幌市民ギャラリーで開催されました。

札幌市民ギャラリーは1階に第1から第3展示室、2階に第4・第5展示室と展示ホールで構成されており、広いホールと無理のない展示室でとても素敵な会場でした。第1展示室は2階まで吹き抜けた広いつくりで、広々とした部屋に文部科学大臣賞を受賞された北海道創玄の柏聡先生や金子鷗亭記念賞を受賞された東海創玄の鈴木史鳳先生を中心とした役員の先生方の作品が悠々と飾られていました。第2・第3展示室は準大賞を中心に会員の作品、第4展示室に一科作品、第5展示室に二科作品が飾られていました。合同展ということで、北海道創玄の先生方の作品と東海創玄の先生方の違う作風の作品が入り混じって展示されていて、相乗効果で楽しい雰囲気でした。

最終日には席上揮毫会とパネルディスカッションが行われました。柏聡先生、川合玄鳳先生、瀧野喜星先生、加藤裕先生の順番で揮毫が行われました。第1展示室の大きなホールの中心に毛氈が敷かれ、その周りにコの字型に椅子が置かれ、更にその周りに立ち見が取り囲み、普段なかなか見ることのできない先生方の生の息遣いに老若男女が食い入るように見つめていました。その後行われたパネルディスカッションでは、揮毫された作品については勿論、「多様性のある書の中で何を求めて作品制作をしているか」をテーマに先生方のお話を聞くことができました。ごまかしのきかない書というものは、先人たちの生きてきたパワーをもらい、普段培って積み重ねてきたものを、紙を通して表現するものである、ということに改めて強く感じました。今回の合同展で学んだことを今後の作品制作に生かしていきたいと思えます。

今回の展覧会および席上揮毫会では北海道創玄の先生方に大変ご尽力いただきました。お礼申し上げます。



北海道創玄展、東海創玄展ツアーに参加して

伊藤蘭香

6月2日

12時30分にセントレアを出発し一路旭川へ。真夏の暑さの名古屋から一変旭川は異常気象とのこと。最高気温10度、真冬でした。しかし、どこまでも続く美瑛の壮大な大地、空もとてつもなく大きく見え、北海道の自然を満喫できました。ここで食べたアスパラがとても美味しく、道の駅などでは、多くの方々が土産に買い求められました。

次に美術館「新星館」を訪れ須田剋太、島岡達三の作品を見学しました。この日から瀧野喜星先生ご夫妻にご同行頂き、三日間大変お世話になりました。

6月3日

瀧野先生のギャラリーを訪問。

そこに加藤裕先生の小品が展示してあり、拝見することが出来ました。午後うりゅう道の駅内に郷土の誇りとして、辻井京雲先生の功績を讃えて町が建てられたとの事で「墨響」と名付けられたギャラリーに先生の作品が飾られていました。雨竜小・中学校に揮毫された門碑も見学しました。

次に滝川市美術自然史館で植田桑鳩先生の貴重な作品の数々を拝見し、その後札幌へと移動しました。

6月4日

午前中、東海と北海道創玄展を見学。

瀧野喜星先生、柏聡先生、加藤裕先生、川合玄鳳先生の席上揮毫も行われ各先生の方力あふれる作品とパフォーマンスに会場は大いに盛り上がり、楽しく勉強させて頂きました。

そして17時30分より、ホテル札幌ガーデンパレスで懇親会が行われました。東海創玄からは39名、総勢300名の賑やかに、温かく迎えて頂いたパーティーでした。二次会も行われ100人余りの出席で北海道VS東海のカラオケバトル。会場は笑い声が爆発し割れんばかりでした。

この度のツアーでは多くの素晴らしい作品に触れ、先生方をはじめ北海道創玄の皆様のご厚情賜り、忘れ難い充実した三日間となりました。



北海道創玄展・東海創玄展ツアー

6月2日（金）～6月5日（月）3泊4日

北海道創玄展・東海創玄展の合同展が札幌市民ギャラリーにて開催。展覧会鑑賞と親睦を兼ねたツアーが企画され、代表の川合玄鳳先生をはじめ25名が参加した。

6月2日（金）1日目

午後2時過ぎ旭川空港に到着。瀧野喜星先生ご夫妻にお出迎えいただきツアーが始まる。うす曇りで風が強く、見渡す限り広大な緑に包まれ遠くには残雪の十勝岳も見える。

最初に訪れたのは美瑛の丘。本格的な時期より早かったので残念ながら花を楽しむことは出来ず、ここは花より団子！！売店のアスパラ・とうもろこしに大満足。次に新星館へ。ここは丘の上に建つ高山植物に囲まれた古民家の美術館。画家須田剋太・陶芸家島岡達三の作品が並びオーナーの大島さんの説明を聞きながら収集の情熱と迫力ある作品にエネルギーを貰った。夕方には青の池に到着。白樺の林の脇に大きな池そして水面に映り込む樹木、晴天であればまっ青のところ、今日は目に優しい淡い青で心を和ませてくれたようだ。宿は白金温泉、海の幸に舌鼓、露天風呂で疲れを癒し、さて明日の天気は？と空を仰ぐ。

6月3日（土）2日目

早朝、ホテルの近くに白髪の瀧があり行ってみたが吐く息が白い。気温は5度。そして8時半ホテルを出発。最初に写真家前田真三の拓真館に立ち寄り、昨日見られなかった花の風景を写真で堪能。バスは丘から市街地へと走る。そして瀧野先生宅に隣接するアトリエ雪墨に到着。そこには加藤裕先生の一字書や多字数の作品など15点が展示され旭川でも拝見できたことに嬉しく思う。昼食には海鮮丼をいただき雨竜の町へ。道の駅には「田園の里うりゅう」と辻井京雲先生の書かれた巨大な木額がお出迎え。併設されたギャラリー墨響では辻井先生ご夫妻と共に大作も含めた16点を鑑賞。アトリエにもご案内いただき電動式システムを導入した広々とした空間に感動。続いて小学校・中学校の校名も辻井先生が書かれたという校門を拝見。改めて雨竜の町との深い関わりを実感した。次に東地滄厓先生による「新十津川町役場」の石碑を見て、筆圧や書き順を重視した刻りの違いに感銘。気温も8度と小雨が降る中、最後に訪れたのは滝川市美術自然史館、上田桑鳩先生の作品11点を鑑賞。瀧野先生も駆けつけ、先生のお声かけにより更に倉庫から6点も拝見することが出来た。箱から出して作品が目に触れる度に歓声があがり皆で読み解く。とても充実1日を過ごし札幌のホテルに到着。ここからは自由行動。各自美味しい物を求めて街の中にくり出して行った。

旅行記 伊高美秀





